



# 文化財ニュース いわき

第 78 号

平成 27 年 12 月 10 日

(公財)いわき市教育文化事業団

福島県いわき市常磐藤原町手這50-1  
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (43) 0391

## 高橋遺跡現地説明会資料

—井出川右岸に営まれた縄文・奈良時代集落跡の調査—

【現地説明会 平成27年12月13日(日) 10時～12時 小雨決行】

高橋遺跡は、双葉郡榎葉町大字井出字高橋・堂ノ前に所在し、J R常磐線竜田駅の東側、井出川右岸の太平洋に面した標高約17mの平坦な段丘上に立地します。

今回の調査は、榎葉町の竜田駅東側地域開発事業にともない、開発区域内の約4,000㎡を対象として平成27年5月よりおこなわれています。

調査の結果、竪穴住居跡(縄文時代・奈良時代)、配石遺構・大型柱穴群・埋設土器・炉跡(縄文時代)、土坑・ピット(縄文時代～中・近世)など数多くの遺構が見つかりました。遺物は縄文時代中期～晩期の土器をはじめ、土偶や石棒・石剣などのおまつりに使う道具や、石鏃などの狩猟具、奈良・平安時代の土師器や須恵器・瓦など多岐にわたって大量に出土しました。

とくに土偶の出土量はきわめて多く、中でも男性を表現した土偶の出土は特筆されます。全国的にも類例は少なく、この発見は縄文時代の精神文化を考える上で重要なものです。



西方からみた高橋遺跡(中央下)



壁の内側をめぐる溝に多くの柱穴を掘り込んだ竪穴住居跡（13号住居跡）



深く掘り込まれた柱穴（ピット377）



埋められた縄文土器（36号埋設土器）

### 縄文時代の遺構

竪穴住居跡・配石遺構・大型柱穴群・埋設土器・炉跡・土坑などがあります。

竪穴住居跡は19棟検出されました。円形で、中央に炉があり、壁の内側に溝をめぐるものもありました。

大型柱穴は直径1～1.5m、深さ1m以上を測ります。中央には直径0.5mほどの柱の痕跡が残っており、柱を埋めた土には大きな石が入っていました。中には底面に白い粘土を敷き詰めたものも確認されています。これらの大型柱穴は掘立柱建物跡や木柱列などを構成したと想定されます。

埋設土器は50基が見つかりました。子ども用のお墓として利用されたと考えられます。土器内部の土から骨片が検出されたものもありました。

とじておきましょう。



カマドをもつ奈良時代の竪穴住居跡（2号住居跡）

### 奈良時代の遺構

竪穴住居跡5棟が見つかりました。これらは調査区の北東側に集中しています。

いずれも方形で、カマドは北壁もしくは東壁に設けられていました。壁の内側に排水のための溝をめぐるせているものや、床面に白い粘土を敷き、間仕切り溝をもつものもありました。また、多量の炭化した木材が住居跡内より出土し、火事があったと考えられるものも確認されました。

これらの住居は出土した遺物から、奈良時代頃のものと考えられます。

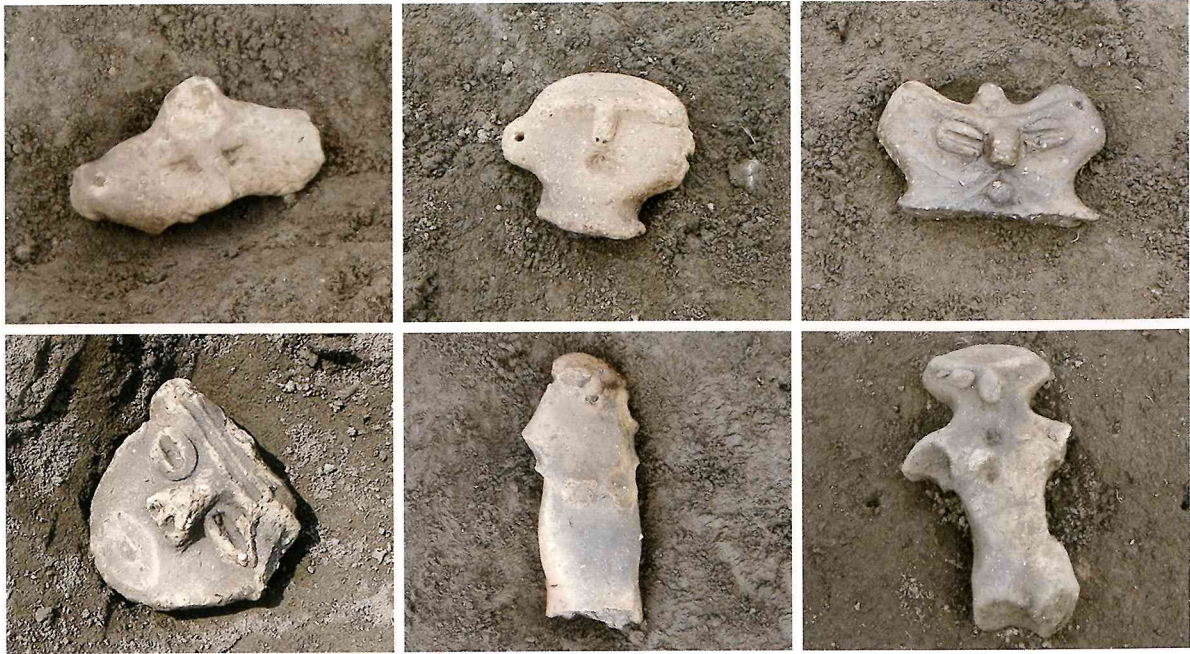
6・7号住居跡の覆土からは奈良・平安時代の瓦が出土しており、当遺跡の周辺には古代寺院などの遺跡があった可能性も想定されます。



重なり合って出土した土師器（6号住居跡）



火事にあった住居跡（5号住居跡）



出土した土偶の顔ぶれ



男性を表現した土偶  
(左上：正面 左下：背面 上：左側面より撮影)



### 出土土偶について

土偶は、遺跡全体から数多く出土しています。これらは女性を表現したものが一般的ですが、今回の調査では男性を表現した土偶も見つかりました。高さ約6.0cm、幅約4.3cmの小型のもので、正面には男性器を模した突起があります。背面にはお尻も表現され、他の土偶と比較して丁寧に、そして写実的につくられています。男性の土偶は全国的にとっても珍しく、土偶のつくられた意義やその背景を探る上で重要な意味をもつ資料となるものです。

とじておきましょう。